

⑫ 公開特許公報(A) 平1-267191

⑤ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成1年(1989)10月25日

B 65 D 90/10

C-6833-3E

B 60 S 5/02

6637-3D

G 01 F 23/04

Z-7355-2F 審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 計量口

⑰ 特 願 昭63-91649

⑱ 出 願 昭63(1988)4月15日

⑲ 発 明 者 太 田 安 人 東京都港区芝浦2丁目12番13号 株式会社東京タツノ内

⑲ 発 明 者 内 田 善 和 東京都港区芝浦2丁目12番13号 株式会社東京タツノ内

⑳ 出 願 人 株式会社東京タツノ 東京都港区芝浦2丁目12番13号

㉑ 代 理 人 弁理士 高橋 敏忠 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

計量口

2. 特許請求の範囲

本体に係合金具を嵌着し、該本体に嵌着された蓋の上縁に係合突起を形成し、該係合突起の側方と前記係合金具とに施錠用の透孔を穿設したことを特徴とする計量口。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、地下タンク貯油量の計量用検尺棒を挿入する計量口に関する。

〔従来の技術〕

かかる計量口に関し、本出願人は実公昭52-4052号公報において、挿入した検尺棒を引上げる際に、検尺の目盛の切込みに中蓋の縁部が引掛かるのを防止した計量口を提案している。

これを第4図について説明すると、本体27は地表面下に形成された凹部3内に設けられ、その本体27の上部側方には蓋28が嵌着されている。

この蓋28に固着されたブラケット29には係合金具30が嵌着され、その係合金具30は本体27の略中程の高さに突設された係合突起31に係合するようになっている。更に本体27の内孔上部には中蓋32が嵌着され、ばね33により内孔を開じる方向に付勢されており、その中蓋32には検尺棒34の目盛の切込み35が中蓋32の縁部に引掛かるのを防止する球冠体36が固着されている。

〔発明が解決しようとする課題〕

上記の計量口において、常時は係合金具30と係合突起31とにそれぞれ穿設された透孔（施錠穴）30a、31aを施錠し、油の盗難を防止するようにしている。しかし、本体27が凹部3内に設けられ、更に本体27の略中程の係合突起31に施錠穴31aが設けられているので、施錠位置が凹部3内の低い所にあり、従って、施錠するのがやりにくい不具合がある。

本発明は施錠を容易にした計量口を提供することを目的としている。

〔課題を解決するための手段〕

本発明によれば、本体に係合金具を収着し、該本体に収着された蓋の上縁に係合突起を形成し、該係合突起の側方と前記係合金具とに施錠用の透孔を穿設している。

上記係合突起側方の施錠穴は、蓋の縁部から水平に突設したアームに設けるのが好ましい。

また、係合金具は本体側方に突設したブラケットに収着し、ブラケットと係合金具との間に係合金具を蓋側に付勢するばねを介装し、更に、蓋を開いたときに係合金具に設けた壁部をブラケットに当接し、係合金具を係合位置に留めておくように構成するのが好ましい。

〔作用〕

上記のように構成された計量口においては、計量口の比較的高い位置で施錠することのできるもので凹部内での施錠操作が容易となる。

〔実施例〕

以下図面を参照して本発明の実施例を説明する。第1図において、給油所の敷地Aの地下には地

下タンク1が埋設され、その地下タンク1の上部には検尺棒挿入管2が設けられている。この挿入管2の上部は、地表面下に形成された凹部3内に突出され、その突出端部には、全体を符号10で示す計量口が固設されている。なお、図中の符号4は給油機、5は吸上管、7は給油管、8は通気管である。

第2図および第3図において、上方開口の筒状の本体11の上縁側から一対のブラケット11a、11aが立設され、それらの上端部には蓋12がピン13により収着されている。この蓋12の内面には、本体11の上縁部との間をシールするパッキング14が押え金具15により止着されている。そして、蓋12のピン13に対向する側の上縁部には、上面が水平な係合突起16が形成され、また、係合突起16の両側には一対のアーム17、17が水平に突設され、それらのアームにはそれぞれ施錠穴18が水平に穿設されている。

他方、本体11の前記係合突起16の下方には一対のブラケット11b、11bが水平に突設さ

れ、これらブラケット11b、11bには係合金具21がピン19により収着され、ばね20により時計方向すなわち蓋12方向に付勢されている。その係合金具21には図示の状態において係合突起16に係止する係止部22が形成されている。また、係合金具21の係止部22の上方部分の縁部には、蓋12を開くときに蓋12の周縁部に当接して係合金具21を反時計方向に回転させるテーパ面23が形成され、また、係合金具21には、蓋12の施錠穴18に対向する施錠穴24が設けられ、更に、破線で示すように蓋12を開いた状態において、係合金具21の端部25が本体11に当接して係合金具21は図示の位置に保持されている。

従って、検尺棒34の挿入に際し錠26を外し、係合金具21をばね20に抗して反時計方向に回転し、係合突起16と係止部22との係止を解いて破線で示すように蓋12を開くと、係合金具21はばね20により、端部25が本体11に当接するように回転され図示の位置になる。計量口に

検尺棒を挿入し、検量後に検尺棒34を抜き、蓋12を開くとテーパ面23に摺接する蓋12の周縁部により係合金具21はばね20に抗して反時計方向に回転し、蓋12が図示の位置で本体11を開くと、ばね20に付勢されて時計方向に回転し、係止部22が係合突起16に係合して蓋12をロックする。そこで、施錠穴18、18、24を錠26で施錠し、油の盗難を防止する。

〔発明の効果〕

本発明は、以上説明したように構成されているので、計量口の比較的高い位置で蓋12の施錠を行うので、施錠を従来に比べて容易に行うことができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明を実施した計量口を備えた給油所を示す垂直断面図、第2図は本発明の一実施例を示す側断面図、第3図は第2図の上面図、第4図は従来の計量口を示す側断面図である。

10・・・計量口 11・・・本体 12
・・・蓋 16・・・係合突起 21・・・

係合金具 22 係止部 18、24

施錠穴

特許出願人 株式会社東京タツノ

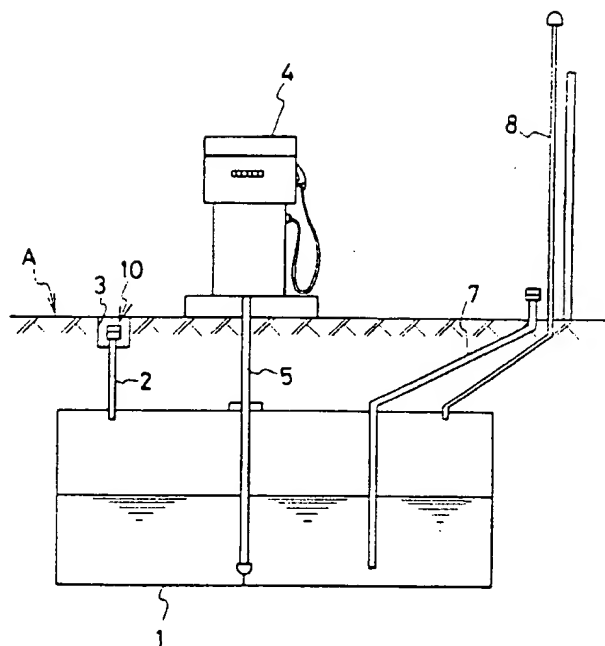
代理人 弁理士

高橋 敬 忠

高橋 敬 邦

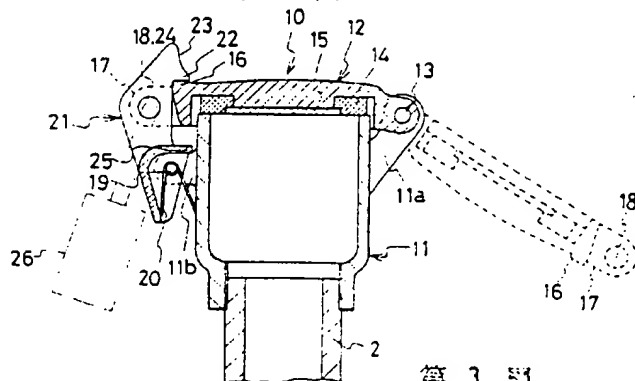


第 1 図

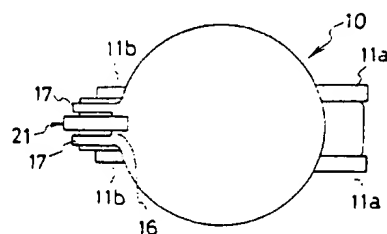


BEST AVAILABLE COPY

第 2 図



第 3 図



第 4 図

